

平成 23 年度第 1 回長野市文化芸術振興審議会 要旨

- 【開催日時】 平成 23 年 7 月 28 日（木）午前 9 時 30 分から正午まで
- 【開催場所】 第三委員会室
- 【出席委員】 中山裕一郎委員、宮澤博委員、土本俊和委員、海沼和幸委員、小林玲子委員、山岸恵子委員、柳澤征人委員
- 【出席職員】 堀内教育長、酒井教育次長、久保田生涯学習課長、山口文化財課長、林部生涯学習課文化芸術推進室長、柳澤生涯学習課係長、西澤生涯学習課主査、吉岡生涯学習課主査
- 【議事】
- （１）会長・副会長の互選について
会長に中山委員、副会長に宮澤委員を選任。
 - （２）H22 年度の事業状況について
事務局より資料に基づき説明。
 - （３）「長野市文化芸術振興計画」推進にあたって（案）
事務局より資料に基づき説明。
 - （４）「市・企業・大学・文化芸術団体等との多様な連携について」
意見交換実施。
 - （４）長野市文化芸術審議会審議予定について
事務局より資料に基づき説明。

主な内容（質問・意見）

【（２）について】

- （委員） 昨年の松代イヤーには、松代文化財ボランティアの会のみならず、NPO 夢空間松代のまちと心を育てる会がHP等で発信し、全国から視察等が増えている。今後、NPO とも十分連携をして正確なボランティアガイド年間案内者数を把握してもらいたい。
- （事務局） 施策 2（歴史・文化遺産の継承と活用）の指標変更は、観光客数はイベントにより年毎の増減があるが、ボランティアガイドの需要増に結び付いていないため。逆にNPO等の案内に流れたとも考えられる。将来の文化財政策や観光政策で必要と思われるので、指標が変わったとしても拾っていききたい。
- （委員） 文化芸術と産業や観光との連携をとりながら、文化施設を利用していただくという方向ができないだろうか。産業と結び付けた文化芸術を今後振興していくことができれば、また違った意味での利用者の増加につながるのではないか。
- （事務局） 22 年度は未着手の項目もある。活性化を図るために、文化芸術が引っ張るのか、観光が引っ張るのか、いずれにしても庁内連携を図って行ないたいと考えている。
- （委員） 松代文化ホールについて H17 から H22 に落ち込みがあるが、その原因・背景として考えられることがあれば教えて欲しい。大きくはないが良いホールなので、もったいないと心配している。
- （事務局） 指定管理への移行、管理者の変更もあり、正直どれが原因で落ち込んでいるのかははっきりしてはいない。経済低迷の中、文化芸術活動以

外での利用の落ち込みもあるとは聞いている。

(委員) 地元の皆さんが使われるのには非常に素晴らしいホールだと思うが、東部文化ホールが出来て、新しくて駐車場も広い北の方に利用者が移行しているのではないか。

(委員) 地元にいるが、年度初めで一杯になってしまうと聞いている。また、指定管理者になってから時間管理が厳しい。

(委員) 駐車スペースが少なく、敬遠されることがあるかもしれない。東部文化ホールが出来たこともあるだろう。しかし、とても良いホールなので、人が来てくれればと思う。

(委員) 東部文化ホールの稼働率がまだ上がらず、市民会館が4年間利用できない状況であるのだから、他の施設をもっと利用するよう稼働率の目標値を高くしてもよいのでは。

(委員) 市民会館閉館後、他のホールの使用をお願いしたが、利用が土日に集中しているので、すでに埋まってしまっている。別の日にすればいいのかもしれないが、イベントとしては変更できないこともある。

これだけ施設があっても稼働率が伸びないかというと、日程が集中しているからだと思う。

(事務局) 東部文化ホールも、週末はほとんど埋まっている。週末は希望が集中するのでどうしても「とれない」という声が多いが、稼働率は平日も含めた開館日数で計算するので、伸びてこない。一時的な需要はあるが、その需要を全て満たす施設整備にはなっていない。希望日を平準化するのは、われわれの側だけでは難しい。利用者側にも協力いただかないと難しい。

(委員) 会場が取れない場合、どうしているのか。

(委員) 結局、事業をやめるか、更に他の会場を探すかというところ。取りやめる団体もあると聞いている。

(委員) ここでは市立施設が対象だが、今は県民文化会館に集中し、競争率が高くなっている。長野市文化芸術祭も今年から県民文化会館で実施している。

(委員) 市民会館が使えない人たちが他の施設に行くから競争率が高くなる。

(委員) 展示する器の大きさに合わせた表現活動もしなくてはいけないかという状況がある。

ホクト文化ホールのギャラリーを利用したが、会場にあわせて小さく表現しなくてはいけないのかというところに、とても心が痛む。ぜひその辺も考えていただきたい。

(事務局) 今までの市民会館利用者がホクト文化ホールに流れていると思われる。同じ日を希望されるので取れないが、日にちをずらす、可能なら平日に変更することで賄える部分もある。

(事務局) 第四次総合計画の指標の中で、それぞれの施設を対象としたが、この指標はすべての施設を網羅したものではなく、欠けている部分があることはご理解いただきたい。

長野市民会館がご利用いただけない分、各施設が膨らんでくるのではというご指摘があった。そのとおりなのだが、現時点でどこの施設にどれだけ流れていくのか分からないので、とりあえず0.1%増として

ある。最終目標は平成 28 年度を目指しており、市民会館が新たに出来る仮定で 26 万増の 52 万という数値を目指している。これを目指す中で、個々の 23 ～ 25 の各年においては、それぞれの施設の利用状況がどう変わっていくのか、見極めながら数字を見直していく必要があるかと思う。

(委員) 施設が取れないために実施をあきらめてしまう、器にあわせたイベントにせざるを得ないという話しを考えると、施設がないということで、長野市の文化芸術が歪められてしまわないように、教育委員会で配慮いただきたい。長野市民会館が無い 4 年間はかなり長い期間なので、思いが途絶え、継承されるべきものがなくならないよう理想を高く掲げながら、現状をどうしていくのかということをしっかりしていただきたい。

(事務局) 市民会館で行なわれていた規模、例えば 1,000 人規模のものを実施する時に、指標で掲げられている施設では実施できない。教育委員会として苦慮しているのは、子どもたちのための音楽会や、長野市全体の音楽会のように市民会館で行なっていたもの。これらはホクト文化ホールに頼るしかないが、ホクト文化ホールの予約も多いので、教育的配慮をしていただく形をお願いしていくしかない。

同規模のものが行なわれにくくなっている状況は確かにあり、今年の例では、定期的に行なわれていた音楽コンクールが、長野市では行えず、千曲市や大町市へお願いするような状況。この 4 年間は、周辺の市町村にもお世話になりながらしのいでいかなければならない。

新しいホールが出来たときには、うまく住み分けをしながら稼働率を上げていくことを考えていかなければならないと思う。

音楽演劇以外のことについては、こちらの審議会でも、どういう部分を重点的に選択していかなくてはいけないかということをご検討いただかなければならないと思う。

特に、美術関係は要望もいただいております、県の美術館との関係をどうするのか、どう展開していくのか。

それから、伝統芸能。例えば能に至っては能楽堂がない。そういうことを考えると、どういうところからやっていかなくてはならないかと、市としてのヴィジョンをたてていかなければならない。

本当はそういうことをやってこなくてはならなかったのに、これまでやっていないので、この審議会の計画も含めて今後どういう風に行政で進めていくか、ご助言をいただきながら進めていきたい。

(委員) 長野県展という美術展があるが、長野市には美術館がないので県展を持ってこられない。松本市美術館では、県展は県の方でがんばって、となかなか貸してもらえないところを、冬開催ということで交渉してお願いした。その次は上田に美術館ができるということで、上田で開催。その次の当番が北信だが、長野市には大きな美術展を持ってこられない状態。そのところを考えていただきたい。

(委員) 指定管理者について、先程の話しでは、カチッと時間を守るので、落ち着いて鑑賞できないところがあると受け取った。

もし、音楽にしても美術にしても余韻に浸る間も与えずに、時間で

追い出すようなことがあるならば、文化芸術に対する破壊行為であって、そんな指定管理者は許せない。契約の条件の中でも、特に大きなイベントの時などは、カチッと時間の尻を決めてしまうところを改善できないかと思う。

(委員) 使い勝手が悪いという話は、条例を作ったときのワーキンググループで意見徴収した中でも出てきた。指定管理者の問題もあると思うが、それだけではなく、もう少し色々な視点から見直したほうがよい。契約の中で動いている指定管理者だけを責めてもいけない。市の方で、使い勝手がいいようにうまく指導・運用していただきたい。

(事務局) 利用者の便を図るというのは当然のことで、条例に規定されているのであれば、条例を直せばよい。朝夕の 1 時間の延長をいくらでやるということを、契約時に利用者と契約すればいい話だと思う。それを、同じ値段でやるのは、人件費の話で難しい。そのような契約条件も含め、深夜に及ばない等、常識的な範囲でやっていかななくてはいけない。

(委員) 説明いただいた中に、実施のないところがある。そのままにしておくのではなく、前から出ているディレクター制度なども、ぜひお願いしたい。

(委員) 文化芸術施策の基本は、長野市の地域性を踏まえた上で行なわれるべきであると日頃から考えている。

そうした中で、子どもたちが文化芸術を体験できるプログラムが、他のまちと何の変わりも無いような内容が組まれていると感じる。音楽会や演劇祭等も、長野市独自のものがあつた上での発表となっていけば素晴らしいと思う。

宗教的と言われればそれまでだが、長野市の子どもたちが善光寺さん知らないで育っているという現状がある。県内の他地域からは見学に来るにも関わらず、地元の子どもたちが地元のこと知らないということは、大変危惧されることではないか。

長野市でも地域独自のものを小学校の中に入れていただきたい。

(委員) 甚句・音頭保存会の活動は、会の中での交流に留まっていた。昨年度の「響つないで」では会の外の人たちに見てもらった。

側面的支援も大事だが、行政も前面に出て支えて欲しい。住民自治協議会の方で支えてはいるが、やり方の面でアドバイスをしていければよい。

(事務局) つい先日、会の方から相談をうけた。仲間内の交流会ではなく、幅広く市民に発信していく時期ではないかという話しをした。それにあたり、行政でどういう支援ができるのか、話し合いを進めているところである。

【(3) について】

(委員) 長野市の文化芸術が、大変意識が低い。まず入口は身近であることが必要。ここで出た意見、話し合いはどの時点で反映されるのか。生かされないと審議会で意見を出してもはじまらない。

(事務局) すぐ反映できるものはすぐ。提言の中で、整備が必要なもの、費用が必要なものは予算化しなくてはならないので、その場合は時間が必

要であるので理解いただきたい。

【(4)について】

(委員) 市は野外彫刻には長らく力を入れているが、こんなに長い期間実施している事業なのに、市民の関心が低い野外彫刻を柱にして、子どもたちにそれをというのは、個人的には難しいと思う。

ぜひ子どもたちが地元の善光寺さんを見学し、学校で話しを聞く機会を持たせて欲しい。

(委員) 小さい時から彫刻や絵画に対する興味を持たせる時間をとってあげればいいが、急に子どもたちに見せて難しいだろう。

地域の勉強をする機会が少ないので、住自協も学校に入って地域のことを教えている。

(委員) 地域を知り、先人から受け継いでいくのは大事。古牧地区の「にとはちさま」演劇などはよい事例。子どもの時にやったことは、大人になってまた循環していくので。市内56校で同じことをするのは難しいが、それぞれの地域の特色を生かして行なえば効果的と思う。

学校の先生だけでは任務が重く大変なので、地域の人、お年寄りに積極的に学校で語ってもらうことも、連携の中でやっていくべきと感じている。学校単位で、地域の未来を担う卵を育てるために、積極的にやって欲しい。

(委員) 地域にとってよい持続性のある文化芸術の拠点になるようにして欲しい。

(委員) 北信美術会では、次世代への芸術文化の継承ということで、8年前から「大きなビックハットの小さな小さな芸術家展」として、子どもたちの作品を毎年200点程展示している。当初は学校や幼稚園と連携をとっていたが、まとめて搬入されて対応しきれなかった。学校の先生たちは忙しいので難しい。今は個人搬入している。8年たつと最初に出品した子どもも高校生になり、美術を目指そうという子も出てくる。

長野市風景画展は皆さん楽しみにしているが、できれば子どもたちの絵も入れてもらいたい。最初は集まらないかもしれないが、長野市の風景を描くということで、子どもの作品を飾り、少しいいものには賞をつけてあげるということも、子どものやる気になると思う。

(委員) 住自協の取り組みには温度差がある。文化芸術については大きな差が出てきていると思う。58校統一してやるのは難しいという話だが、それができるのが教育委員会。

地域の風景を描くにも、地元の歴史文化を知った上での風景を描く。歴史あつての文化芸術であると思っているので、せめて善光寺さんだけでも、取り上げてもらえればと思う。

(委員) 市町村によっては、太鼓は教育委員会の管轄で、行事には町村のバスで来るところもある。演奏する子どもたちの力は素晴らしい。移動の面などで市のバックアップが欲しい。

(委員) 子どもたちを対象と考ええると、発表の場が確保されているということが重要。発表したことにより賞をとれば、それが一生の自信や思い

出になる。賞をあげる場が減っているが、企業や団体による賞を子どもたちに増やしてあげてはどうか。

長野駅の自由通路で子どもの絵を展示している。そういう常設展示の場を増やしていけたらと思う。

野外彫刻は、一つ一つは素晴らしいが、場を形成しているかという点と弱いところがある。彫刻を取り巻く環境を評価しないと難しい。

作ったことがないのに鑑賞してありがたく思えといわれても困るからとっつきにくい。野外彫刻として子どもたちに作ってみせること。一人では出来なくても複数で作って、その作品をしかるべき場所で展示することで、意識が変わる。自分がつくる側になれば、事例を見なくなるので、プロの作品をみることに繋がる。野外彫刻 139 点を生かすとすれば、そして子どもを巻き込むとすれば、自由通路の絵画のように、子どもの作品を展示するとともに、作らせるのがいい。

野外彫刻にこだわるのは、建築と結構似ているため。野外彫刻に意識を持てば、景観や町並みに対する意識が非常変わる。景観が何か分からない人が減り、将来、長野らしさとは何かということに繋がっていくと思う。野外彫刻をこんなに長い間設置してきたのだから、子どもにあわせて頑張れないかと思っている。

(委員) 作らせてみるという活動は大切。現代音楽は難解で遠いものと思われるが、イギリスでは、現代音楽の演奏会では、演奏の前に、子どもたちが、現代作曲家がつくるのと同じような方法で子どもたちにも体験させ、それを発表させている。自分たちにもできると感じることで、将来の聴衆を育てる。循環を意識して、長いスパンで考えている。見せること、聞かせることも大切だが、体験するワークショップなどが有効。来年再来年の話ではなく、もう少し先により展開があるかもしれない。

視覚的なことも大事だが、聞くこと、長野市にとっての音はどのようなのか。ここに行けばこんな音が聞こえるという、音地図＝サウンドスケープという楽しい街づくりがある。長野市にもいろんな素敵な音があるように思う。すぐにではなくても、そんなことも入れていけたらよい。

子どもとは離れるかもしれないが、市、企業、大学、文化芸術団体との多様な連携ということと言うと、例えば八十二文化財団は、かなりいろいろなものを出している。彫刻や、石碑、芸能などについても本を出している。うまく利用して、データベースを共有していくことも大事かと思う。

前回も申し上げたが、メセナ活動の受け皿はどうなっているのか。松本市には受け皿があると聞いている。何かやろうとしても、お金がないと動けない。企業にとってもメセナ活動にはメリットがある。税制上のことだけでなく、働く人たちにとっても誇れるものだと思う。なにか、投資しやすいような受け皿は考えられないかと思う。

(委員) 松本市の場合は文化振興事業団が受け皿となっていると考えられる。市民芸術館の運営もやっている。千曲市や須坂市も文化振興事業団がある。これから新しい市民会館を作っていく中で、長野市にも必要か

と考えている。

野外彫刻は、当初は民間から支出していただいていた。設置していた。現在は市費で設置しているが、スポーツばかりでなく、文化芸術にも協賛をいただくことは必要かと思うので、積極的におねがいしたい。

（事務局）メセナについては、組織化した活動もあれば、個々の事業のバックアップもある。今後、十分加味しながら考えていきたい。

（委員） これからの若者世代のニーズも汲み取って生かしていく必要がある。想像できないジャンルを考えていることもある。想像力を引き出していった欲しい。若者たちの文化芸術に対する意見を聞く会などやれば参考になると思う。

（委員） 青少年に光を当てようというのは素晴らしい。大切なのは育てようとか、高いところから何かやろうというのではなくて、子どもたちが持っているものを引き出すということ。ここに一番心を砕いていかなくては、いくら立派なものを上から与えても、子どもたちに届かないと思う。子どもたちがその気になるようなものを作っていただければありがたい。